

革命後のキューバにおけるヌエバ・トロバ

——シルビオ・ロドリゲスの作品を中心に

畑 陽子 愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻（音楽学コース）

要旨

ヌエバ・トロバとは、革命後のキューバに見られる、音楽家たちによる歌の運動である。また、その歌自体もヌエバ・トロバと呼ばれる。ヌエバ・トロバの運動は、ラテン・アメリカ諸国の革命をとりまく社会現象の一部として、社会科学的な視点からいくつかの考察がなされている。しかし、近代キューバの重要な歌のジャンルとして認識されているヌエバ・トロバを、音楽的側面から、作品自体に焦点を当てて分析した研究は行われていない。本論文は、ヌエバ・トロバの作品自体、とりわけ音楽的な要素に焦点を当てることで、今まで行われてきた社会科学的な研究に音楽学的視点からの考察を加えることを目的としている。

1959年にキューバ革命が起り、米国との敵対関係が形成され、1960年代にはキューバは社会主義国家となった。とりわけヌエバ・トロバが注目を浴びる理由として、ヌエバ・トロバの作品やアーティストたちの活動に商業的な米国音楽への傾倒がみられることが挙げられる。これらのことは、当時のキューバの米国との関係や社会主義的な文化政策と矛盾している。これらの矛盾はしばしば指摘されながらも、彼らの活動や政府との関係など社会政治的な側面が論じられることがほとんどで、音楽作品そのものに焦点を当て、楽曲分析をもとに具体的に示されたものはなかった。本研究では、ヌエバ・トロバの作品を音楽的に分析し、先行研究で指摘されているジャズやロックなどの米国音楽からの影響を具体的に示す。また、社会的背景を考慮したうえで、それらの分析をもとにヌエバ・トロバが持つ性格を再考察し、今まで社会的なプロパガンダとしてみなされてきたヌエバ・トロバの音楽作品としての評価を試みる。

論文全体は、序章と3つの章から構成される。序章では、ヌエバ・トロバを扱う先行研究を概観し、ヌエバ・トロバの運動が注目を浴びる理由として、当時のキューバと米国との関係や、キューバの文化の方針とヌエバ・トロバ

バに見られる米国音楽からの影響という矛盾を挙げた。

第1章では、キューバ革命とキューバにおける反米意識の高揚について述べた。また、革命後のキューバにおける政策、それに対する米国からの攻撃や経済封鎖などの報復、キューバ国民たちの反米感情の高まりについて述べるとともに、キューバの東側諸国との接近と社会主義化について言及した。一方で、米国内において反戦運動が隆盛を極めたことに関しても述べた。

第2章では、第1章で述べたことが革命後のヌエバ・トロバのアーティストたちの作品や、政府の関係にどのように影響したかに目を向けて考察した。ここでは、ヌエバ・トロバドルたちの歌がしばしば「反政府的」とみなされ、政府にとって脅威となり得るものだったことを指摘した。また、彼らが政府とどのような関係にあったのか、主に1960年代後半から1970年代初頭にかけて述べた。彼らは政府から抑圧されるとともに、一部の政府機関からは擁護され、活動を行っていたことを示した。

第3章では、ヌエバ・トロバのアーティストたちが1970年代に開始した、電気・電子楽器の使用や外国音楽からの要素の導入などの新たな試みについて述べた。まず、そのきっかけを作った国営機関について概観した。次に、シルビオ・ロドリゲスの〈銃対銃〉の楽曲分析を行い、外国音楽からの影響を具体的に示した。この作品において、使用される楽器やリズムなどに外国音楽からの影響が見られると同時に、キューバの伝統的な音楽の要素は失われていないことも分かった。先行研究において外国音楽の要素や最新音響テクノロジーの使用が強調されがちであったが、作品の根底にはキューバの伝統音楽の要素が流れていることが明らかになった。次に、ヌエバ・トロバの運動(MNT)の展開によって変化したトロバドルたちの地位、ラテン・アメリカ諸国との文化交流、またそれによってヌエバ・トロバの作品にどのような変化が起こったのかに着目した。ここではシルビオ・ロドリゲスの〈理由と運命〉の分析をもとに考察を行った。この作品では、キューバ音楽と外国の音楽の完全な融合がみられた。MNTの運動の展開によって政府公認の地位を手に入れたヌエバ・トロバのアーティストたちには、過去のキューバの音楽表現に回帰するのではなく、新たな表現を模索し、同時にキューバラしさを追求する姿勢がみられた。この作品におけるキューバ音楽と外国音楽の融合は、1960年代から続い

たヌエバ・トローバのアーティストたちと政府との闘争の結果、どのように両者が歩み寄ったかを例示している。

ヌエバ・トローバのアーティストたちは、1960年代、政府から抑圧される状況下においても、また、1970年代中期以降公式の地位を手に入れた後も、変わらず新しい表現を模索し続けた。その一方でキューバの音楽の要素を失わない彼らの姿勢には、革命後のキューバにおける文化的閉塞の打破とキューバの文化発展への意識が反映されている。